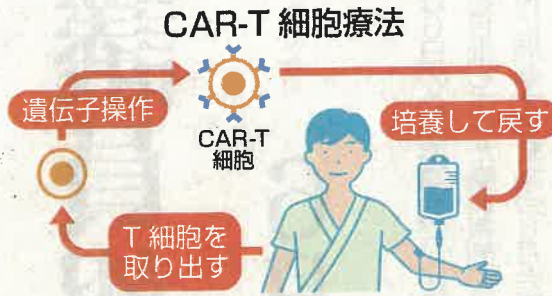


徳島大学病院は6月から、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫といった血液がんの新しい治療法「CAR-T細胞療法」を県内で初めて導入した。

抗がん剤が効かない患者にも効果が期待でき、副作用が比較的少ないため、これまで治療法が限られていた70歳以上でも治療が受けられる。



CAR-T細胞療法は、がん細胞を攻撃する免疫細胞「T細胞」を患者の血液中から取り出し、遺伝子操作で攻撃力を高めた「CAR-T細胞」を患者の体内に戻す。

徳大病院、県内初

血液がん 新治療法導入

副作用少なく高齢でも可能

治療は、太めの点滴チューブを用いて患者の体内からT細胞を取り出して戻すだけなので、体への負担は比較的小さい。攻撃力を高めたCAR-T細胞が体内で増殖しながら急速にがん細胞を撃退するため、サイトカインという物質が大量に生み出される。高熱や血圧低下を引き起こす例もあるが、副作用は一時的で、炎症を抑制する薬を使って抑えられる。

一方、ネックとなるのはCAR-T細胞の製造に4〜6週間を要すること。治療開始が遅れると、がんが進行して根絶できない恐れが出てくる。

（山口和也）

徳島新聞令和7年6月7日掲載
コピー、転載禁止